

令和8年度 大和川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア (参考)英語3技能
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	62	58	51	6.5	11.6	500
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

《全国学力・学習状況調査》

令和8年度の正答率は国語が58%、数学が51%となった。どちらの教科も正答率は、前年度（国語51%、数学44%）から上昇している。また、今年度実施の英語も大阪市・全国と比べても同水準であり成果がみられた。無解答率は、国語・数学ともに増加し課題がみられる。

《国語》

正答率は、令和7年度51%から令和8年度58%へと7ポイント上昇した。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率(60.0%)が、大阪市平均（59.5%）を上回っており、基本的な語彙の学習において成果が見られた。しかし、「B 書くこと」(60.2%)、「読むこと」（53.8%）、および「A 話すこと・聞くこと」(57.0%)など、文章での表現力や長文読解に課題を感じる。今後は、言葉に関する知識を適切に使えるように、授業において話し合いを積極的に取り入れ、長文読解に関しては、演習形式で様々な問題に触れさせることで学力の向上を図っていく。

《数学》

正答率は、数学でも令和7年度44%から令和8年度51%へと7ポイント上昇した。「B 図形」(48.4%)が、大阪市平均（47.6%）を上回り、全国平均（48.7%）とほぼ同等レベルである。「D データの活用」(40.7%)や「C 関数」(46.2%)には、データを読み取ることや、数量の関係をグラフで表すことに課題が残る。

今後は、データの傾向や数量の関係を読み取る活動を充実させるとともに、その根拠を説明する場面を設けるなど、数学的に考え、表現する力を向上させる。

《英語》

英語4技能における平均IRTスコアは（497）であり、大阪市平均（497）、全国平均（499）とほぼ同水準である。その中で、3技能（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）の平均IRTスコアは（500）となり、大阪市平均（499）、全国平均（499）を1ポイント上回った。生徒の習熟度分布（IRTバンド分布の特徴）では、中位層の厚みを示す「バンド3」の割合が（42.4%）と最も高く、大阪市（34.3%）や全国（36.2%）と比較しても中間層の割合が厚い。また、最も低い「バンド1」の割合は（3.4%）にとどまっている。今後は、「聞くこと」「話すこと」のコミュニケーション能力の育成・定着を図り厚みのある中間層「バンド3」の生徒だけではなく、課題がみられる層「バンド1・2」も含めて、全体を上位層「バンド4・5」へ引きあげていけるよう学力の向上をさせる。

《生徒質問紙》

平日のSNSの使用や動画視聴で、3時間以上と答えた生徒が53.3%と長時間利用の割合が高く、生活習慣や学習時間への影響がでないように節度ある使用を呼びかける必要がある。

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒は72.5%である。自分の長所や強みに気がつき、自信を持って夢や目標に向かえるようキャリア教育にもつなげる。

学習時間では、休日1時間未満しか学習しない生徒が全体の約半数（48.4%）を占めている。自主的な学習習慣を定着させるため、スタディサプリなどを活用して課題を出すなど取り組みを進めていく。

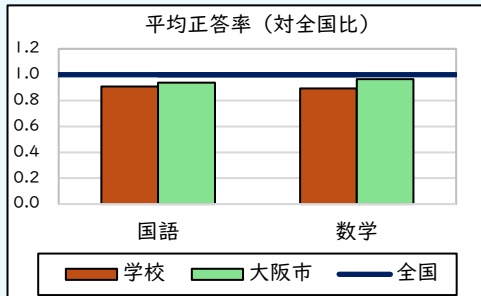
「学級での話し合い活動を通じて考えを深められているか」の質問に対する肯定的回答は82.3%となり、学習や学級活動等を通じて考えを深めたり新しい視点に気づく生徒が多く、今後も充実した教育活動を推進する。

今後に向けて

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

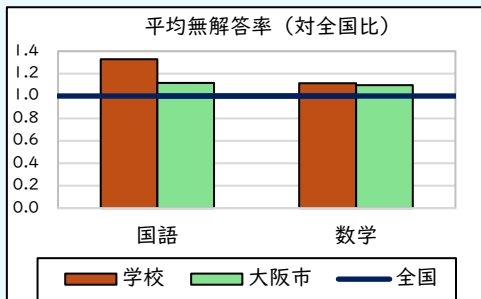
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	58	51
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



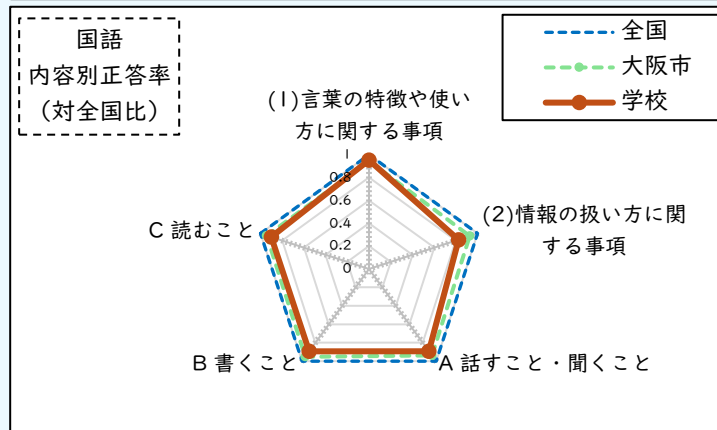
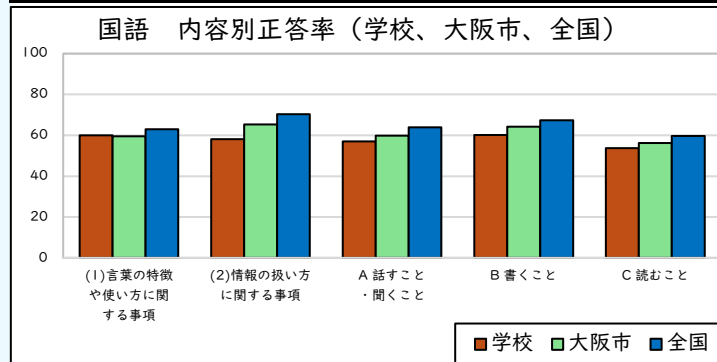
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	6.5	11.6
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



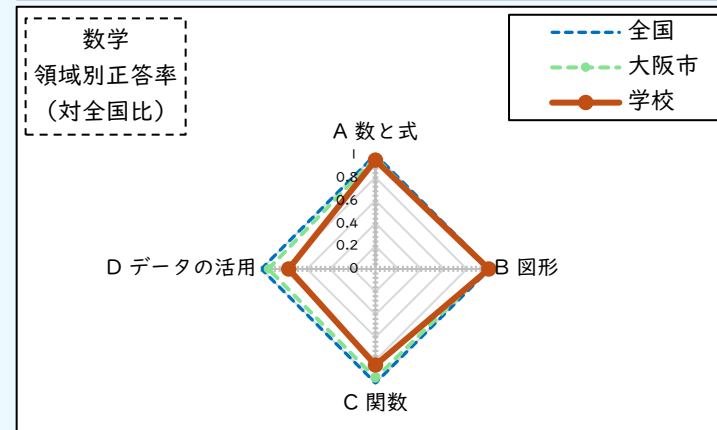
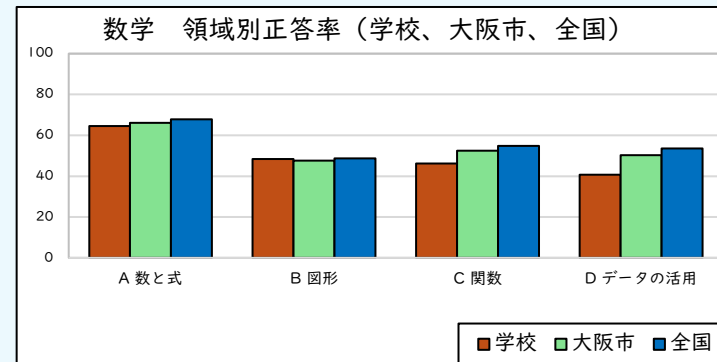
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	60.0	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	58.1	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	57.0	59.9	63.9
B 書くこと	3	60.2	64.2	67.4
C 読むこと	3	53.8	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	64.5	66.1	67.8
B 図形	4	48.4	47.6	48.7
C 関数	3	46.2	52.5	54.8
D データの活用	4	40.7	50.2	53.5



令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

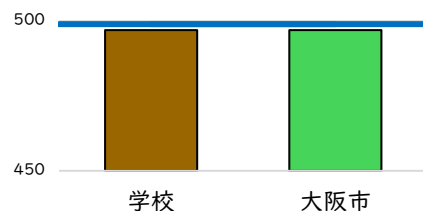
英語 平均IRTスコア

学校	497 (500)
大阪市	497 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです

平均IRTスコア 英語 4技能



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

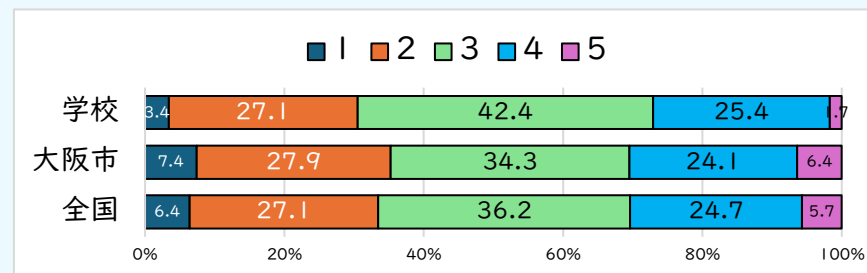
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

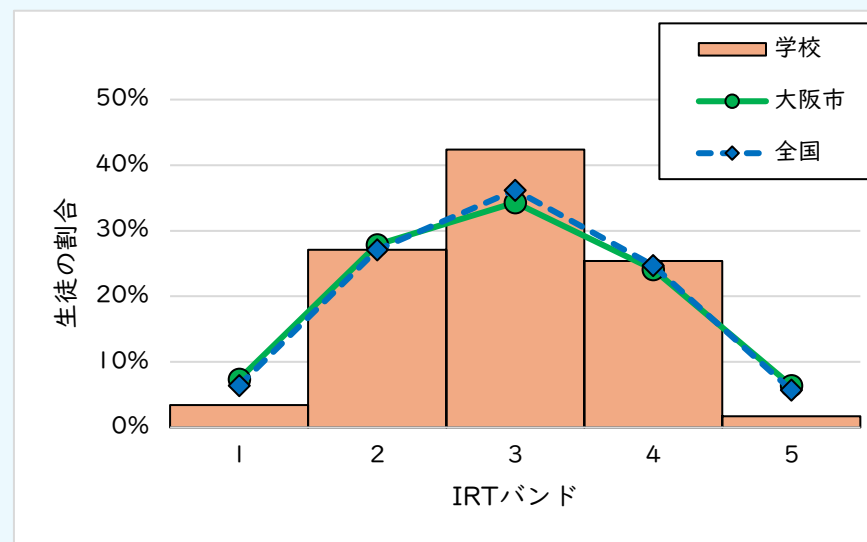
	1	2	3	4	5
学校	3.4	27.1	42.4	25.4	1.7
大阪市	7.4	27.9	34.3	24.1	6.4
全国	6.4	27.1	36.2	24.7	5.7

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

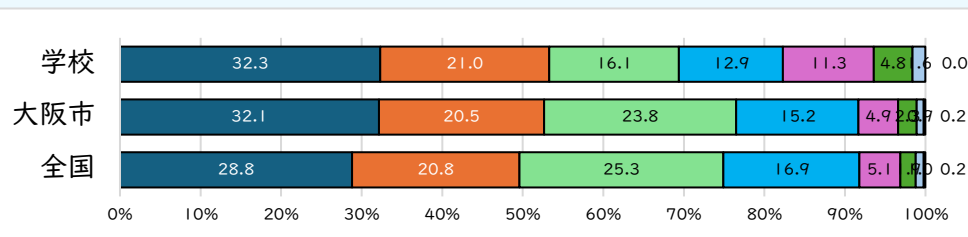
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号

質問事項

(4)

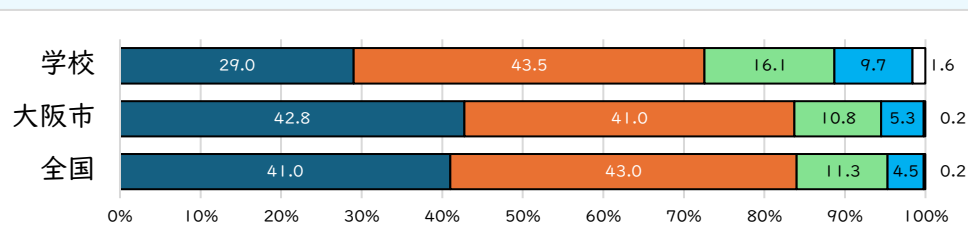
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



- 1 4時間以上
- 2 3時間以上、4時間より少ない
- 3 2時間以上、3時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 30分以上、1時間より少ない
- 6 30分より少ない
- 7 スマートフォン等を持っていない

(8)

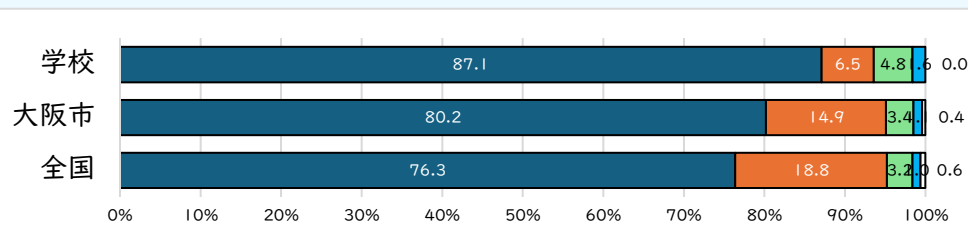
自分には、よいところがあると思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(12)

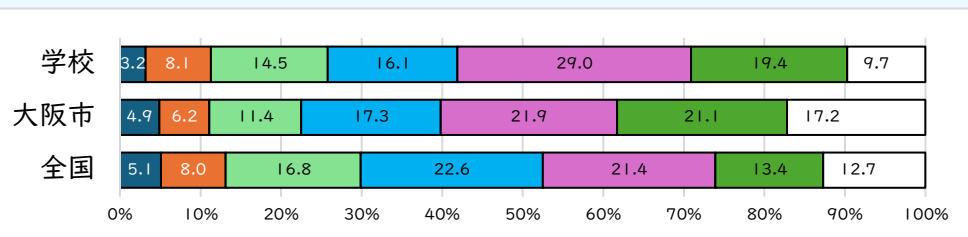
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(25)

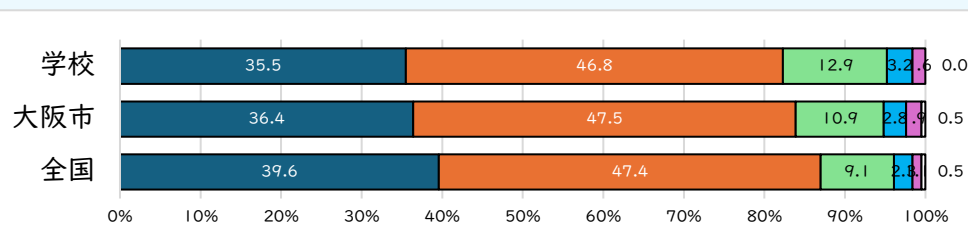
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



- 1 4時間以上
- 2 3時間以上、4時間より少ない
- 3 2時間以上、3時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 1時間より少ない
- 6 全くしない

(42)

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない
- 5 学級の生徒との間で話し合う活動を行って

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号

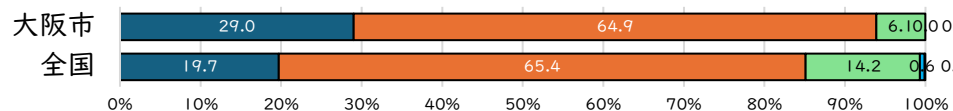
質問事項

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

(7)

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

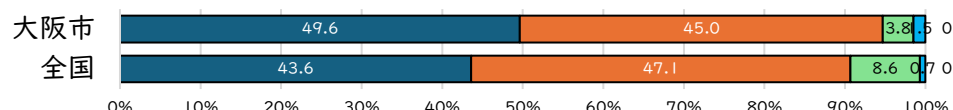


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(8)

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

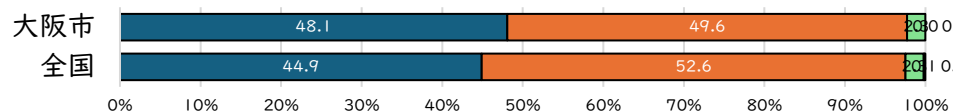


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(10)

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行いましたか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、行った

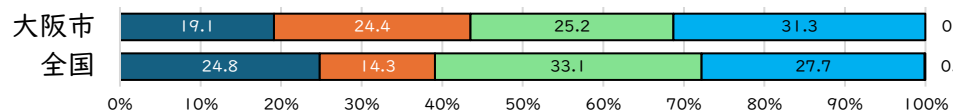


1 よく行った
2 どちらかといえば、行った
3 あまり行かなかった
4 全く行かなかった

(12)

近視の予防の一環として、学校の休み時間（昼休みを含む）や放課後などの時間（部活動の朝練・放課後練習を含む）に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たったの配慮事項（対象から30cm以上目を離す、30分に1回は目を休めるなど）について指導していますか

【学校の回答】 1 指導している

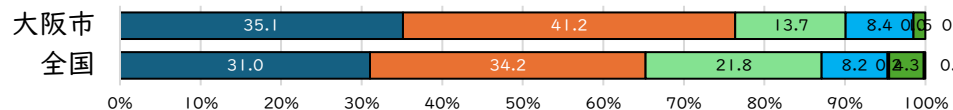


1 指導している
2 屋外に出ることは指導しているが、近い所を見る作業に当たったの配慮事項は指導していない
3 屋外に出ることは指導していないが、近い所を見る作業に当たったの配慮事項は指導している
4 指導していない

(14)

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

【学校の回答】 2 月数回程度行った



1 週1回程度、または、それ以上行った
2 月数回程度行った
3 学期に数回程度行った
4 年数回程度行った
5 行わなかった
6 特に問題を抱えていなかった